

2021年卒
Vol.7

5月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活2021 学生モニター調査結果 (2020年5月発行)

企業の採用広報開始から2カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率が5割を超える高水準ながらも、コロナショックが深刻さを増す中でペースダウンしたことがわかった。

コロナ禍での就職活動についての考えや就職環境の見方等、多岐にわたる項目を調査した。

1. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は26.9社。前年同期調査(27.2社)と同水準
- 会場型の会社説明会参加社数は平均6.8社。前年同期(10.3社)より大きく減少
- WEBセミナー視聴者は全体の89.6%。ライブ配信7.7社、オンデマンド配信5.7社視聴

2. 選考試験の受験状況

- ES提出社数は平均13.1社。筆記9.0社、面接5.9社。いずれも前年同期を上回る
- 面接のオンライン化が進んだことで、WEB面接の経験を持つ学生が全体の7割強に(72.6%)

3. 5月1日現在の内定状況

- 内定率は5割を超える高水準をマーク(50.2%)。但し、内定取得のペースは鈍化
- 就職活動を終了したのは全体の2割(21.1%)。約8割が就職活動を継続

4. 内定を得た企業の属性

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中(31.7%)。2位「建設・住宅・不動産」(14.5%)
- 従業員5,000人以上の大企業の内定が大きく増加。4月内定の約4割(38.9%)を占めた

5. 就職活動継続学生の動向

- 現在選考中の企業は平均5.5社。継続者の過半数がエントリー企業を増やす予定
- 就職活動を終えたい時期は「6月後半」が最多(25.8%)。昨年の「6月前半」より半月遅く

6. コロナ禍での不安

- 「オンライン就活への不安」59.9%、「採用数減少への不安」73.0%
- 企業の担当者に直接会う機会がないまま内定承諾「抵抗ある」63.5%、「抵抗ない」36.5%

7. 就職環境の見方と就活難易度

- 「売り手市場から買い手市場に変化してきている」70.2%
- 自身の就職活動「厳しい」6割強(64.9%)。4年ぶりに過半数に

8. 就活川柳

- 「ウェブ面接 メモ準備より 部屋掃除」「パンプスが 出番がないと 泣いている」

調査概要

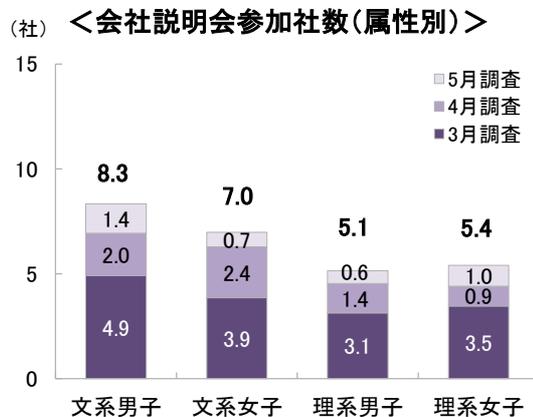
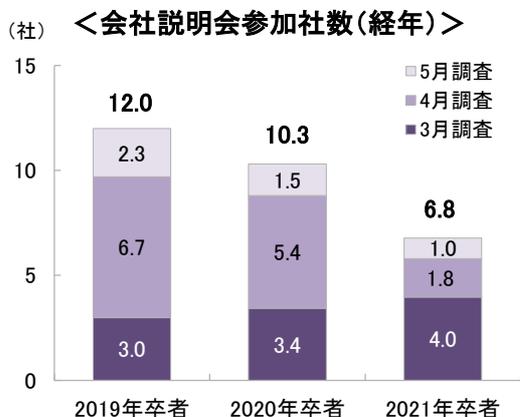
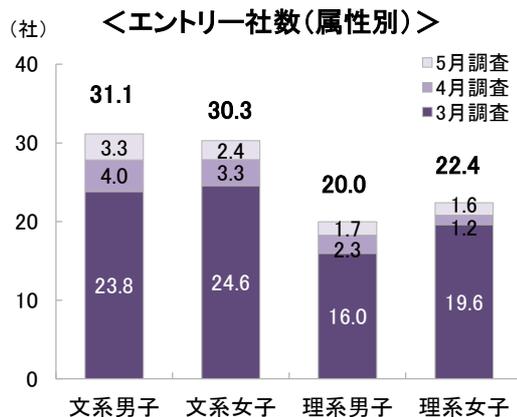
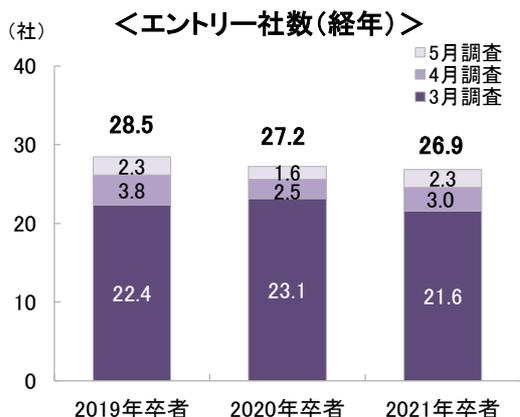
- 調査対象 : 2021年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,212人(文系男子387人、文系女子362人、理系男子339人、理系女子124人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2020年5月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2021学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. エントリー社数とセミナー参加社数

新型コロナウイルス感染拡大による影響下で、2021年卒者の就職活動はどのように変化しているだろうか。5月1日時点の活動量を見てみたい。

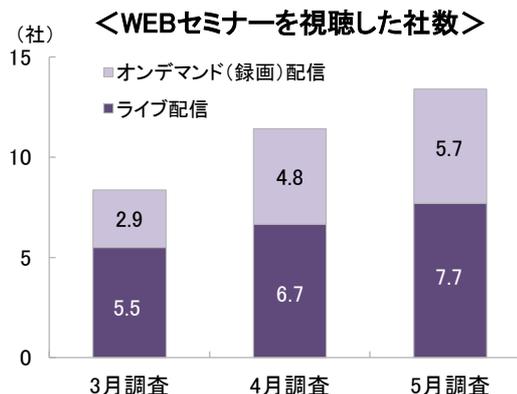
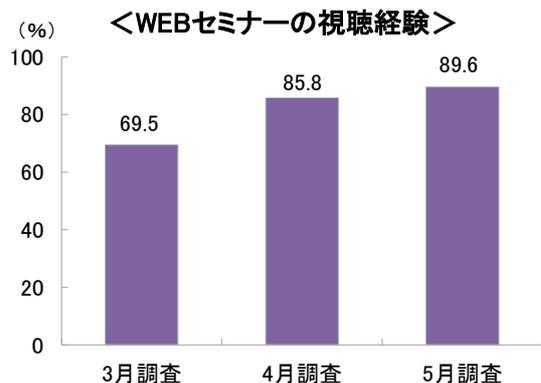
まず、一人あたりのエントリー社数の平均は26.9社と、前年同期実績(27.2社)とほぼ同程度で推移した。一方、WEBセミナーを除く会社説明会の参加社数は平均6.8社と、前年同期実績(10.3社)から大きく減少。会場型の説明会が軒並み中止になっていることが大きく影響している。反面、WEBセミナーの視聴経験率は約9割(89.6%)に達し、視聴社数も3月以降コンスタントに増加している。

企業と直接出合える機会は減っているものの、就職情報サイトやオンライン合説などで企業を知る機会を補った結果、エントリーに関しては前年並み程度で推移しているとも読み取れる。



※WEBセミナーを除く

※WEBセミナーを除く



2. 選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート (ES)、筆記・WEB 試験、面接試験、最終面接の各項目とも、経験率はほぼ前年並みの割合で推移。一方、受験社数に関しては各項目とも前年同期実績を上回っている。少なからぬ混乱の中でも、企業が着実に選考を推し進めていることがうかがえる。

また、緊急事態宣言を受けて選考のオンライン化が進んでいるが、WEB 面接の経験について尋ねたところ、学生全体の 7 割強 (72.6%) が WEB 面接の経験があると回答した。

オンライン就活が主流となったことで、時間に余裕ができ、受験できる企業が増えた可能性も考えられる。

<選考試験の受験状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	92.1	93.4	91.0	94.8	91.7	88.7
筆記・WEB試験	91.3	93.3	88.9	94.5	91.4	89.5
面接試験	89.2	89.3	87.1	92.3	88.8	87.9
最終面接	63.2	62.3	58.7	61.9	70.2	62.1

※面接には WEB 面接を含む

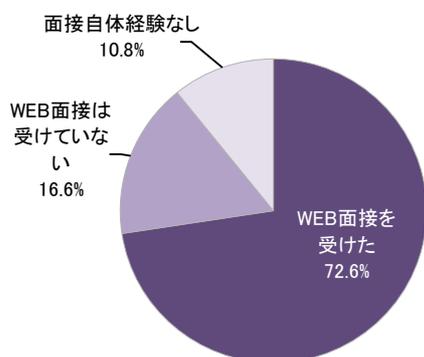
<選考試験の受験社数>



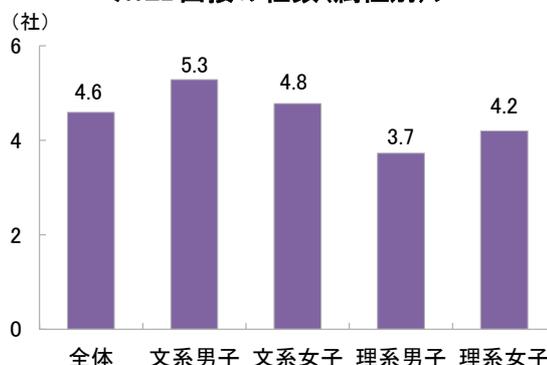
※それぞれ受験者を分母に平均社数を算出

※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出

<WEB面接の経験>



<WEB面接の社数(属性別)>



※受験者を分母に平均社数を算出

3. 5月1日現在の内定状況

5月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の50.2%で、5割を超える高水準だった。ただ、前回の4月調査では前年実績を大きく上回っていたのが(8.3ポイント増)、今回は前年(51.1%)をやや下回る数字となった。外出自粛で対面での活動が大きく制限される中、内定出しのペースが鈍化した様子が表れている。

内定を得た企業の内訳を見ると、インターンシップに参加した企業の比率が前年よりも高まっており(53.1%→61.1%)、3月以降の母集団形成が困難な企業において、インターンシップ参加者に対し優先的に選考を進める動きが強まったことが想像できる(グラフは次ページに掲載)。

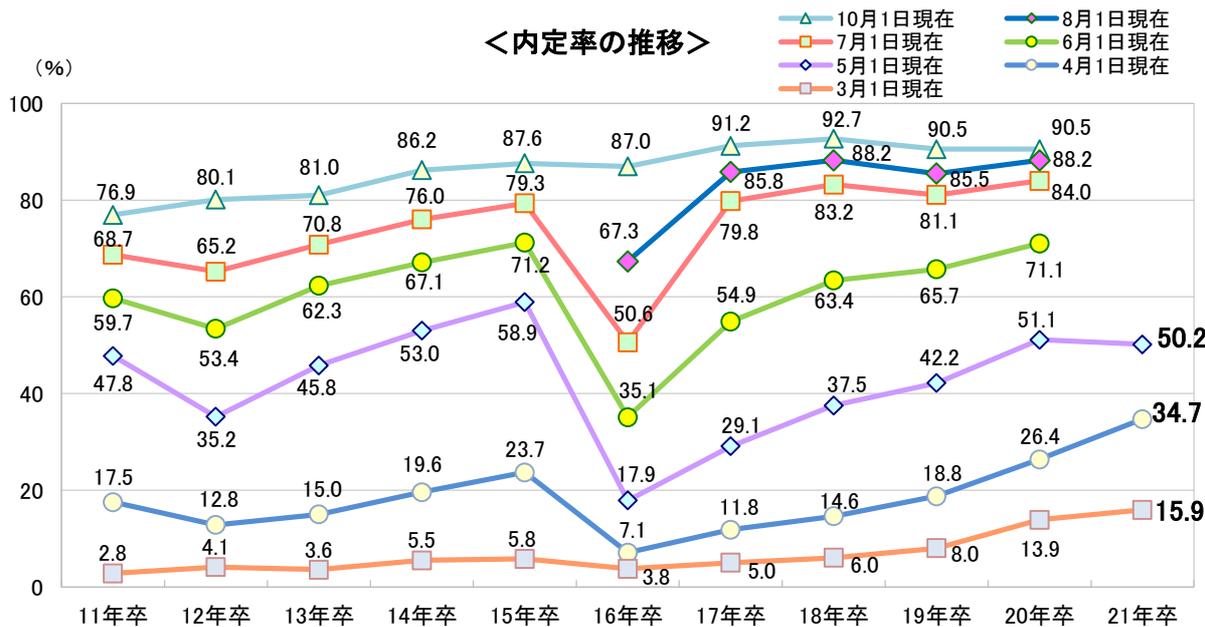
内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは36.8%。内定取得後も過半数(57.9%)は就職活動を続けていると回答した。

＜5月1日現在の内定状況＞ *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		50.2 (51.1)	39.8 (42.5)	49.7 (51.3)	60.5 (58.7)	55.6 (58.0)
内定なし		49.8 (48.9)	60.2 (57.5)	50.3 (48.7)	39.5 (41.3)	44.4 (42.0)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	36.8 (35.4)	26.0 (29.2)	29.4 (26.9)	45.9 (44.7)	53.6 (47.0)
	活動は終了したが複数内定保持	4.6 (6.7)	3.9 (5.6)	6.1 (5.5)	3.9 (8.0)	4.3 (8.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.7 (0.6)	1.3 (0.6)	0.0 (0.0)	1.0 (1.0)	0.0 (1.2)
	就職活動継続	57.9 (57.3)	68.8 (64.6)	64.4 (67.7)	49.3 (46.2)	42.0 (43.4)

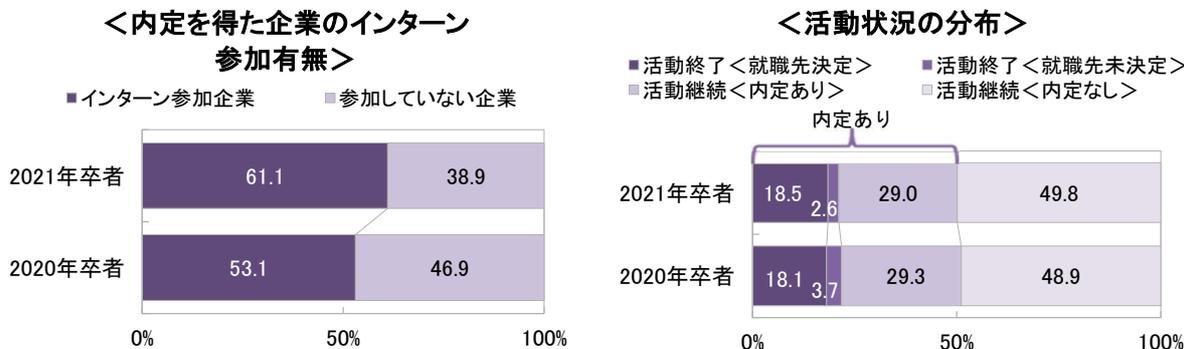
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.7 (1.7)	1.6 (1.8)	1.6 (1.7)	1.7 (1.7)	1.7 (1.8)

※ () 内は前年(5月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~21卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は18.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (2.6%) を合わせても、就活終了者は2割程度にとどまる (計21.1%)。残りの8割近くは活動中であり、内定の有無によらず多くの学生にとって、やはり6月が正念場になりそうだ。



4. 内定を得た企業の属性

5月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全40業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が先月に続いて1位。ポイント数も3割を超え、この1カ月でさらに多くの内定が出たことがわかる。2位は「建設・住宅・不動産」(14.5%)で、特に理系で多い。

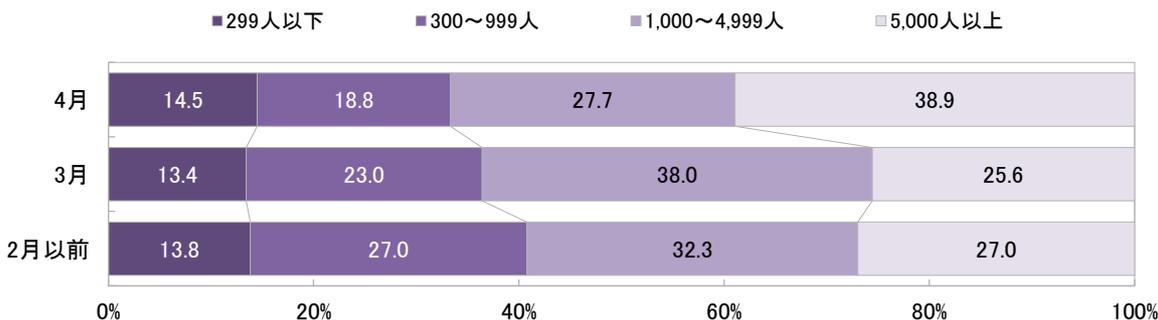
内定企業の従業員規模の比率を、内定が出た時期ごとに算出した。従業員1,000人以上の大手企業がいずれも半数を超えるが、時期を追うごとに比率が高まり、4月は3社に2社の割合となった (計66.6%)。とりわけ「5,000人以上」の比率が急増し、4割近くを占める (38.9%)。大企業において、4月に内定出しが進んだ様子が読み取れる。

＜内定を得た業界 (上位5業界) ＞

		全体		文系		理系					
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	31.7	33.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	29.2	2	建設・住宅・不動産	14.5	13.8	建設・住宅・不動産	18.6
3	調査・コンサルタント	10.5	11.1	建設・住宅・不動産	16.4	4	電子・電機	10.2	8.4	情報・インターネットサービス	12.4
4	電子・電機	9.4	8.4	情報・インターネットサービス	12.0	5	情報・インターネットサービス	9.4	8.4	自動車・輸送用機器	12.0
5	情報・インターネットサービス	9.4	8.4	自動車・輸送用機器	12.0		専門店				

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

＜内定を得た企業の従業員規模(内定取得時期別)＞



5. 就職活動継続学生の動向

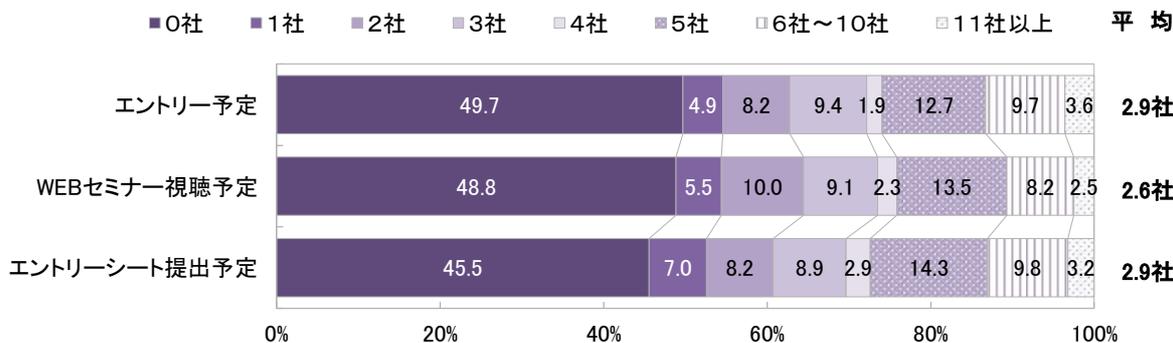
内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (全体の78.9%) の動向を確認したい。

現在選考中の企業数の平均は5.5社。前年同期調査と同水準。文理男女別に見ると、文系では男女ともに6社を超えているのに対し、理系男子は3.7社と少ない。理系男子は内定率が6割を超え、他の属性よりも早く進行していることも関係あるだろう。

今後のエントリー社数を尋ねたところ、平均は2.9社。「0社」という回答は半数未満にとどまり、継続者の過半数がエントリー企業を増やす予定だ。5社以上を合計すると26.0%に上り、新たな企業を積極的に探す姿勢がうかがえる。WEBセミナー視聴予定の平均社数は2.6社、エントリーシート提出予定は2.9社と、エントリーと同程度。

	全体	(2020年卒者)	(2019年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	5.5	5.4	5.6	6.1	6.2	3.7	5.1

<今後の予定社数>



続いて、今後就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「新たに企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」で約3割 (29.7%)。前年同期を4ポイント近く上回る。「これまで興味をもった企業を中心に活動」、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動」は前年を下回る。新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明な中、受験企業を増やす意向が、このデータからも読み取れる。

<今後の就職活動の方針・戦略>

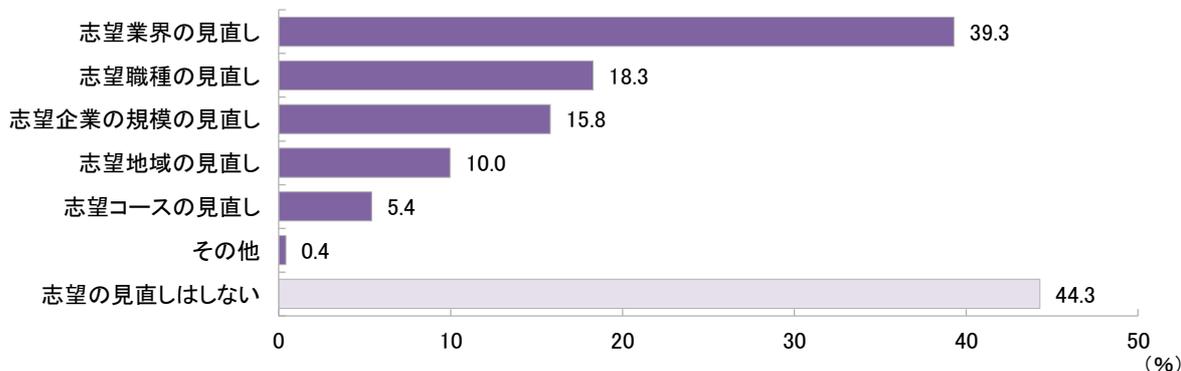
- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する



※各年5月調査

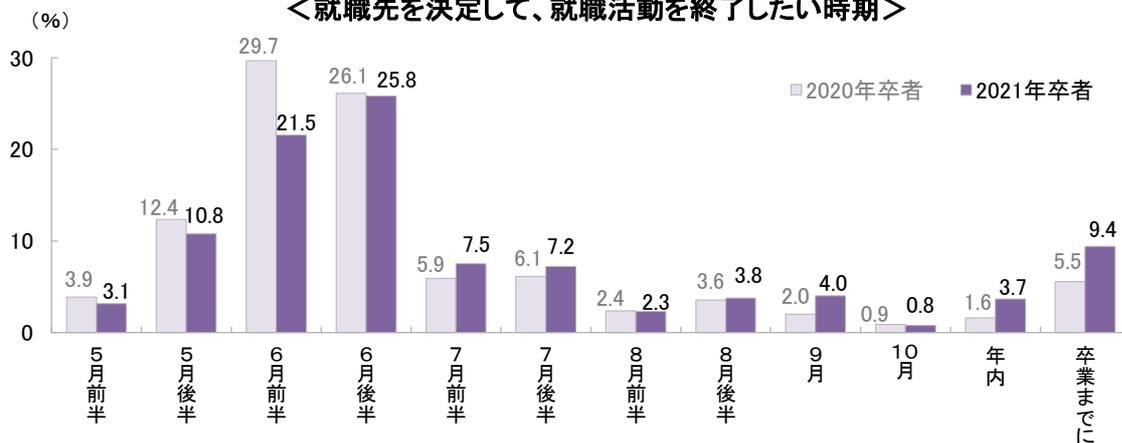
今後エントリーを予定している学生に、受験企業（持ち駒）を増やすために見直すことを尋ねた。「志望の見直しはしない」は 4 割超。就職活動継続者の 5 割強（55.7%）が、何らかの見直しをする と回答した。具体的には「志望業界の見直し」が圧倒的に多く約 4 割に上る（39.3%）。

＜持ち駒企業を増やすために見直すこと＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。昨年は「6 月前半」が約 3 割（29.7%）で最も多かったが、今年は約 2 割（21.5%）へとポイントを下げ、「6 月後半」が最多に（25.8%）。新型コロナウイルスの影響で企業の選考日程が延期、中断されるなど、思うように活動が進められず、終了時期の見込みが立たない学生も多いようだ。「卒業までに」が 1 割近くに上っており（9.4%）、長期戦を覚悟する者も少なくない。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



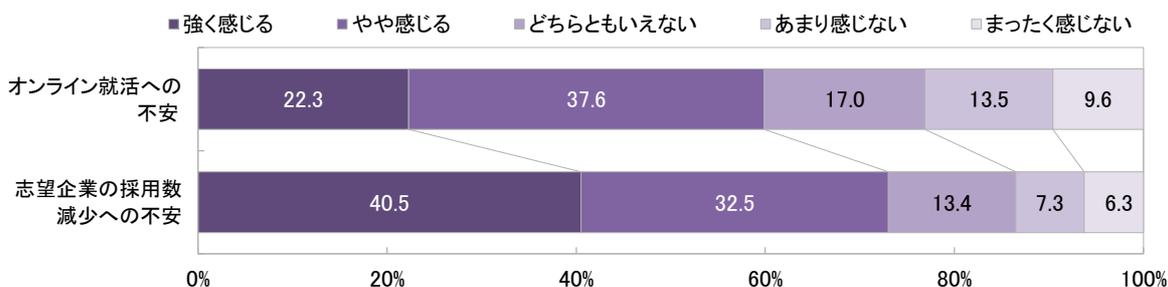
■就活継続学生の声

- 就活を終了している人も増えてきた一方、コロナを理由に選考がストップしている企業もあり、なかなか先が見えない。 ＜理系女子＞
- 新型コロナウイルスの影響で採用数が減らされることもある中、業界を絞った就職活動で内定が得られるのかという思いがある。 ＜理系男子＞
- 内々定の返事を保留にしてもらっていても、その承諾期限までに選考が進む企業がなく、これからの就職活動がどのくらいのスピードで進むか予測がつかない。 ＜文系女子＞
- 焦っても仕方ないので、やれることをやっていく。 ＜文系男子＞

6. コロナ禍での不安

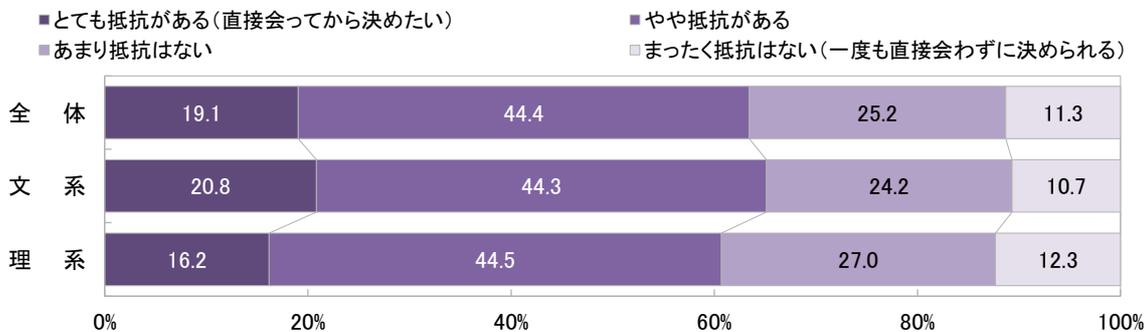
就職活動にどのような不安を感じているのかを尋ねた。急速に進む「オンライン就活」に対しては約 6 割が不安を感じると回答 (計 59.9%)。「採用数減少」への不安はさらに多く、7 割強に上った (計 73.0%)。とりわけ「強く感じる」の割合が 4 割を超えている。コロナショックで業績が悪化し、採用数が絞られるのではないかと不安が学生の間広がっていることが読み取れる。

＜コロナ禍での就職活動の不安＞



コロナ禍の収束時期が見えない中で、最終面接をオンラインで実施する動きも増えている。もし企業の担当者と直接会う機会が一度もないまま内定を得た場合に、入社を決断できるものなのか、意向を尋ねてみた。「とても抵抗がある」(19.1%)、「やや抵抗がある」(44.4%) 合わせて 6 割強 (計 63.5%) が、抵抗があると回答。社員の雰囲気や社風など、直接会わないと感じられないとの意見が多く寄せられた。他方、抵抗がない学生も 4 割近く存在 (計 36.5%)。「対面でも WEB でも、得られる情報はあまり変わらない」、「第一志望であればオンラインか否かは関係ない」などの声が挙がっている。

＜内定承諾まですべてオンラインで進むことへの抵抗感＞



■抵抗があるという学生の声

- 実際に対面で話をすることで、相手に伝えられること、感じられる情報があると思う。 <文系男子>
- 画面越しだけで本当に自分のことを知ってもらえるか疑問に感じる。 <文系女子>
- 職場の雰囲気や社員の人柄も重視しているため、できれば直接会いたいと思う。 <理系女子>
- 内定を得るまでは仕方なくオンラインでもいいけど、決断にはやっぱり対面しないと入社後のギャップ等が生まれそう。 <文系男子>

■抵抗はないという学生の声

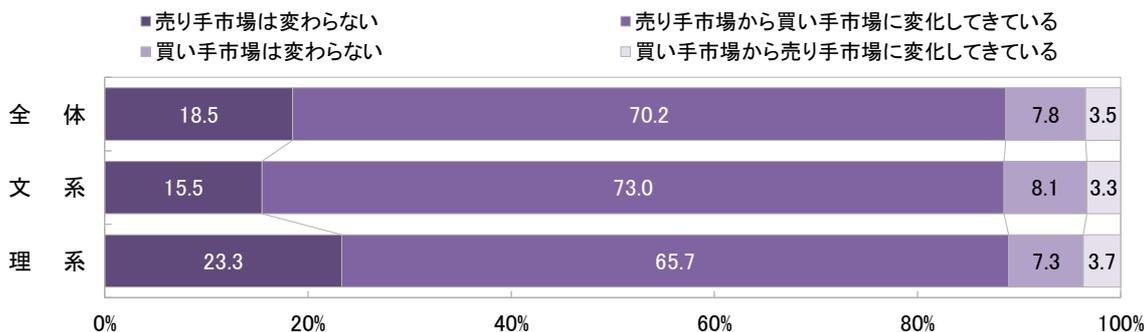
- その企業が第一志望の企業であるなら、あまり抵抗はない。 <文系女子>
- 実際に会っても知りうる情報は限られ、オンラインであっても同じだから。 <理系男子>
- 今後の働き方としてオンライン会議やリモートワークが主流となると感じたため、むしろオンラインでの感触で決めてもいいのではないかと思います。 <文系女子>

7. 就職環境の見方と就活難易度

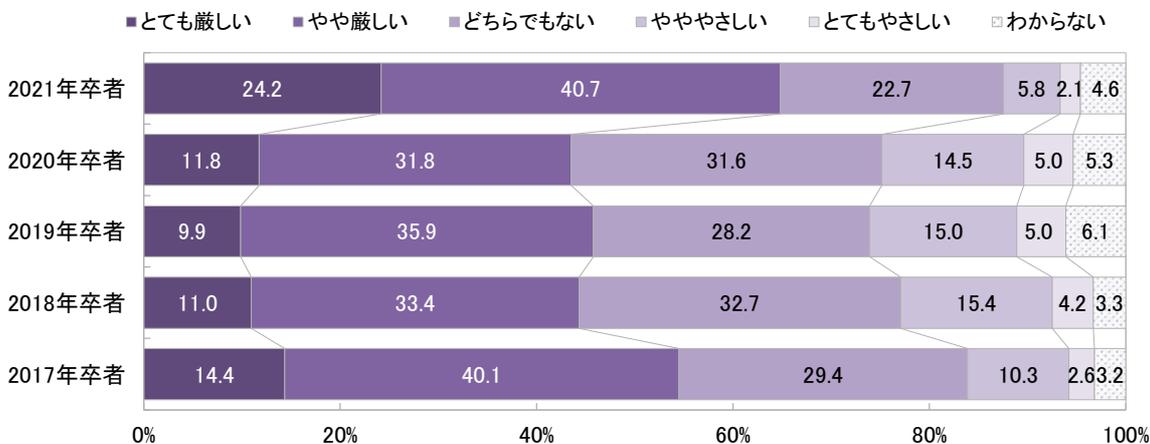
これまでの就活状況を踏まえ就職環境をどう見ているのかを尋ねた。「売り手市場から買い手市場に変化してきている」が7割に及び、市場の変化を感じ取っている学生が多いことがわかる。

現時点での就職活動の難易度についても、「とても厳しい」(24.2%)、「やや厳しい」(40.7%)を合わせて6割強が厳しいと回答(計64.9%)。ここ5カ年の推移を見ても、半数を超えたのは2017年卒者以来4年ぶりだ。先行きの不透明性が不安を増幅させているのだろう。企業に対しては「採用フローの変更があれば早めに教えて欲しい」、「オンライン説明会を増やして欲しい」などの声があり、スケジュールの把握や知る機会を広げることによって不安を解消したい気持ちが表れている。

＜就職環境の見方・変化＞



＜現時点での就職活動難易度＞



■今後の就職活動に不安を感じている理由

- 説明会が軒並み中止となる中で、十分に企業に出会えていないと感じる。 <文系男子>
- 採用スケジュールが延期のまま再開の見込みが立っていない企業が複数あるため。 <文系男子>
- 採用数が減り、インターンなど早期選考で採用する人でほぼ終わってしまう可能性がある。 <文系女子>
- 今までオンライン就活を経験した人たちが多くないので経験談を聞くことができない。 <文系女子>

■企業に配慮してほしいこと

- 選考の延期・ウェブへの移行が多い今だからこそ、なるべく早く情報を伝えてもらえるとうれしく感じます。 <文系男子>
- 会社の雰囲気を知れるウェブコンテンツを増やしてほしい。 <文系男子>
- WEBでもいいので、一人一人とじっくり話す機会を設けて欲しい。 <文系女子>
- WEB面接で通信環境が悪くなったとき、なにか別の手段で再開してほしい。 <理系男子>

8. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 540 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

コロナ禍で急速に進むオンライン就活への戸惑いや、就職環境の変化に対する不安など、どれも等身大の就活生の心情がよく表れている。

